

家庭総合	●単位(●時間)
	●●学科 ●学年 ●年●組

学習の到達目標
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. (学びに向かう力・人間性等のうち) 主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。

使用教科書	大修館書店 [家総705] 「Creative Living『家庭総合』で生活をつくろう」
使用副教材	大修館書店 [家総705] 準拠「学習ノート」

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 必要な知識を習得し、理解できているかを、小テストや学期ごとの考査で確認する。</li> <li>* 基礎的・基本的な技術の習得と定着、その表現を、提出物や発表、生徒相互の評価、自己評価から判定する。</li> <li>* 学習への関心・意欲を、授業や実験・実習への参加態度や感想から評価する。</li> <li>* 学習における課題に対して、どのように思考し、判断し、解決したかを、レポートやワークシートなどから評価する。</li> </ul>

課題・提出物	レポート、ワークシート、学習ノート、実験・実習の記録など
--------	------------------------------

学期	月	学習内容(章・節・項)	時間	学習のねらい	他教科との関連、学習活動の特記事項				知識・技能	思考・判断・表現	c. (学びに向かう力・人間性等のうち) 主体的に学習に取り組む態度
						a	b	c			
		<b>家庭科を学ぶということ 家庭科の学び方</b>	1	1 「家庭総合」をなぜ学ぶのか理解する。 2 生活を主体的につくるために必要な力を考え、学習するうえでの目的意識をもつ。	* 小中学校での学習を振り返らせる。 * キャリア教育、「公民」との連携。 * 「第11章」との関連。 * 「ライフプラン」を描かせてみるとよい。			○			● 生涯にわたり、自立した生活を主体的につくるために必要な力について考えようとしている。
<b>第1章 生活のマネジメント</b>											
		(導入)章とびら <b>1 生涯、発達し続ける</b>	1	1 個人の発達段階の特徴と発達課題を知る。 2 ライフステージについて理解する。	* 今までの自分を客観的に振り返らせる。 * ライフステージのおもな課題については「第6章 共生社会をつくろう」と関連づけながら考えさせるとよい。 * 高校進学、大学進学、就職などの具体的な例をあげ、そのときどきで、思考・選択・決定がなされることに気づかせる。 * ライフコースの参考になるような例(雑誌記事など)を示したり、集めさせたりするとよい。	○		○	● 生涯発達の考えかたに立ち、各ライフステージごとの特徴と課題について理解している。		● 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、各ライフステージの特徴と課題について考えようとしている。
		<b>2 意思決定を重ねてつくる人生</b>	1	1 意思決定のプロセスを意識的に実行することで、一時的な欲求を解決するだけでなく、長期的に展望のある選択ができることを理解する。 2 生活を支える資源にはどのようなものがあるかを理解し、自己実現のためにそれらを活用することについて考える。		○		○	● ライフスタイルや生活にかかわる価値観の多様化、意思決定の重要性について理解している。		● 意思決定の意義と方法を理解しようとしている。
		<b>3 どんな生き方をする？ 演習にTry！ 人生を見通してみよう</b>	2	1 さまざまなライフスタイルがあることを知り、自分の将来のライフスタイルを具体的にイメージする。		○	○	○	● 充実した人生を送るためには、生活時間の配分や計画化および将来の生活への目標や展望が重要であることを理解している。	● 高校生活の課題、自己の生きかた、将来の家庭生活と職業生活のありかたについて考えを深めながら、生活設計を立案したり、発表したりしている。 ● 自分の将来について、ライフプランを描いてまとめたり、発表したりしている。	● さまざまなライフコースがあることについて考えようとしている。 ● 自分らしいライフスタイルや生活にかかわる価値観、生活時間のありかたなどをふまえ、将来の生活設計について考えようとしている。
<b>第2章 青年期の課題と自立</b>											
		<b>1 子どもからおとなへ</b>	1	1 自分の生活と自分自身について自己理解を深める。 2 青年期の発達課題を達成するための生きかたを考える。	* 「公民」「保健」との関連。	○	○	○	● 青年期の自立について理解している。	● 自立や男女の平等と相互の協力などの青年期の課題について、自己の生きかたと関連させて考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	● 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、青年期の課題について考えようとしている。
		<b>2 自立の達成をめざそう</b>	1	1 青年期は、自立した生活が営めるように、また、自己実現にむけて生きていくための準備をする時期であることを理解する。 2 自立と同時に、多様な価値観や生き方を認めて他者と共生する「共生社会」と「持続可能な社会」の実現をめざすことも青年期の課題であることを理解する。		○	○		● 自立とは何かについて理解している。 ● 新聞や書籍、インターネットなどを活用したり、身近な人にインタビューしたり、事例研究等に必要資料を収集したり、疑問に思うことや興味をもったことを調べたりすることができる。	● 自立とは何か、自立を達成するために今、できることは何かについて、まとめたり、発表したりしている。	
<b>第3章 家族・家庭生活のマネジメント</b>											
		<b>1 家族って何だろう</b>	1	1 「家族」の定義を理解する。 2 家族と世帯について理解し、現代の家族の特徴と社会とのかかわりについて理解する。	* 小中学校での学習を振り返らせる。 * 家族・家庭に関する法律については「公民」との関連。	○		○	● 現代の家族の特徴について理解している。		● 現代の家族の特徴に関心をもち、これからの家族のありかたや社会とのかかわりについて考えようとしている。
		<b>2 わかってくれて当然？</b>	1	1 家族の人間関係について事例、演習等を通じて考える。 2 家族関係から生じる問題について知り、その解決方法について考え、必要な力を身につける。		○	○	○	● 現代の家族の特徴とその変化などについて具体的な事例を調査・研究し、発表することができる。	● 親子関係や夫婦関係などの家族関係のありかたについて、具体的な事例や演習を通して考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	● 家族関係に関心をもち、これからの家族のありかたや社会とのかかわりについて考えようとしている。
		<b>3 生活マネジメントの拠点</b>	1	1 家庭が家族個人に果たしている機能と社会に果たしている機能を理解する。 2 家庭の機能が各家族員の協力によって果たされていることを認識し、各自の家庭での役割を考える。		○	○	○	● 現代の家庭の機能について理解している。 ● 家事労働と職業労働の特徴について理解している。 ● 現代の家庭の機能とその変化などについて具体的な事例を調査・研究し、発表することができる。	● 各自が担う家庭での役割について、具体的な事例や演習を通して考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	● 家庭の機能、家事労働と職業労働などに関心をもち、これからの家族のありかたや社会とのかかわりについて考えようとしている。
		<b>4 法律からみる家族・家庭</b>	1	1 家族・家庭に関する法律を理解し、制度としての家族について考える。		○	○	○	● 家族・家庭に関する法律について理解している。 ● 他教科で学んだことと関連づけたり、新聞や書籍、インターネットなどを活用したり、疑問に思うことや興味をもったことを調べたりして、研究・発表することができる。	● 家族・家庭に関する法律をもとに、社会制度としての家族について考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	● 家族・家庭に関する法律に関心をもち、社会制度としての家族について考えようとしている。

学期	月	学習内容(章・節・項)	時間	学習のねらい	他教科との関連、 学習活動の特記事項	a	b	c	知識・技能	思考・判断・表現	c. (学びに向かう力・人間性等のうち) 主体的に学習に取り組む態度
		5 ダイバーシティの実現をめざす	1	1 家族・家庭に起こる問題の中には、社会全体で解決をめざさなくてはならない問題があることを知る。 2 男女共同参画社会の実現をめざし、男女がともに家庭生活の責任を果たし、人間らしい生きかたをするための課題を考える。 3 私たちの社会は、多様な生き方、多様な価値観で成り立つ社会であることを理解する。		○	○	○	●固定的な性別役割分業意識の見直しや仕事と生活の調和、男女が協力して築く家族・家庭について意見交換ができ、実際の場面においても対応できる力を備えている。 ●多様な生き方、多様な価値観で成り立つダイバーシティの社会について理解している。	●男女がともに家庭生活の責任を果たし、人間らしい生きかたをするための課題について考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●家族の問題を社会の問題としてとらえ、その解決方法を考えようとしている。 ●男女共同参画社会の実現、ダイバーシティの社会を実現することの大切さについて考えようとしている。
第4章 子どもの生活と子育てのマネジメント											
		1 子どもの世界を知る	1	1 人間は成長していく存在であることを知る。 2 子どもの時期は人としての土台をつくる重要な時期であることを理解する。 3 子どもの成長・発達は一ひとり違うものであることを理解する。 4 子どもの行動の背後にあるものを理解し、かかわり方を知るとともに、かかわりの中でつくる「愛着」が、子どもの現在から将来に至るまで成長・発達に不可欠であることを理解する。	* 生命の誕生については「保健」との連携。 * 生命の尊さについては「公民」「道徳教育」との連携。 * 幼稚園や保育所、地域の子育てひろばなどで、子どもと交流する機会をもつことができるとよい。 * 視聴覚教材を活用する。	○	○	○	●乳幼児期が人間の発達の基礎をつくるもっとも重要な時期であること、および環境の重要性を理解している。 ●人間形成の基礎となる乳幼児期は、親による働きかけが重要であることを理解している。 ●子どもの成長・発達は個人差が大きいことを理解している。 ●自分の子どものころのことを振り返りながら、子どもにとって大切なことを子どもの側に立って考えることができる。	●人の一生における子どもの時期の位置づけについて考えを深め、まとめたり、発表したりすることができる。 ●乳幼児期の重要性と子どもの人間形成について、親としてどうあればよいかを考え、意見交換できる。 ●子どもの成長・発達を見守る視点について、個人差や順序性と関連づけて考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●乳児期の「愛着」の形成や子どもの人格形成にかかわる親の役割について考えようとしている。
		2 命の誕生	1	1 子育ては妊娠中からすでに始まっているということを理解する。 2 胎児の成長・発達には、母体の健康管理が必要であることを理解する。 3 胎児の成長・発達の過程や母体におこるさまざまな変化を知り、父親になる男性や周囲の人が配慮すべきことを理解し、実行できるようにする。		○		○	●妊娠・出産までの過程と胎児の成長発達の関係について理解している。 ●胎児の成長・発達のために母親や父親、周囲のおとながすべきことを理解している。 ●妊娠の確認、母子健康手帳、妊婦健診など、妊娠・出産にかかわる知識を獲得し、適切に対応できる力をもっている。		●育てられる立場と育てる立場の両方の視点に立って、命の誕生について考えようとしている。 ●子どもの成長・発達という観点から、女性は妊娠・出産に備えること、男性は胎児と母親の健康を守る立場になることについて意欲的に考えようとしている。
		3 こんにちは、赤ちゃん	1	1 新生児期・乳児期の子どもの体と心の成長・発達をこまかく知るとともに、発達とはそれらの総合的なものであることを理解する。		○	○	○	●乳児期特有の体の成長・発達の特徴を理解している。 ●新生児の生理的な特徴を理解し、それに応じた対応ができる力をもっている。	●乳児期の心身の成長・発達の過程について、自分の子どものころと比較しながらまとめたり、発表したりすることができる。	●乳児期の心身の成長・発達とその特徴を、子どもが育つ環境と関連させて考えようとしている。
		4 好奇心いっぱい！	1	1 幼児期の子どもの体と心の発達をこまかく知るとともに、発達とはそれらの総合的なものであることを理解する。		○	○	○	●幼児期特有の心身の成長・発達の特徴を理解している。 ●ことばを発達させることばかけ、感情を発達させる気持ちの交流など、子どもの立場に立って実践することができる。	●幼児期の心身の成長・発達の過程について、考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●幼児期の心身の成長・発達とその特徴を、子どもが育つ環境と関連させて考えようとしている。
		演習にTry！ 子どもとふれあおう	1	1 子どもと交流することによって、喜怒哀楽や自分の思いをどのような形で表現するのかを知る。 2 子どもの成長・発達を促すコミュニケーションの取り方を、子どもの特徴と合わせて実践的に理解する。		○	○	○	●乳幼児との接し方、コミュニケーションの取り方について理解している。 ●保育所や幼稚園等での実習で、子どもと適切にかかわることができる。	●乳幼児の心身の成長・発達を促す働きかけについて、乳幼児に応じておこなう工夫をしている。	●乳幼児と積極的にふれあおうとしている。
		5 子どものいる暮らし	1	1 子どもにとって生活習慣を身につけることの重要性を知り、家族の果たす役割を理解する。 2 子どもの発達を促し、子どもと楽しく過ごすためのかかわりかたを知る。		○	○	○	●基本的な生活習慣・社会的な生活習慣について理解している。 ●子どもの成長・発達を第一に考えて生活をつくっていく必要性を理解し、その心構えがある。	●子どもの成長・発達の適切な援助方法について考え、まとめたり、発表したりしている。	●子どもの成長・発達を促す生活のありようについて理解しようとしている。
		6 子どもの仕事は「遊び」	1	1 遊びの意義を理解し、児童文化に関心をもつ。		○	○	○	●子どもにとって、生活から得られるあらゆる刺激がその子の人間形成につながっていることを理解する。 ●子どもの発達、生活と遊びについて調査・観察したことをまとめたり、発表したりすることができる。	●現代の子ども心身の成長・発達について、生活や遊びなど近年の少年社会における子どもを取り巻く環境の変化などを視野に入れ、課題をみつけ、それらの原因および解決方法をまとめたり、発表したりしている。	●子どもにとっての遊びの意義と子どもの遊びについて関心をもとうとしている。
		7 子どもの健康と事故	1	1 子どもの健康と安全について、基本的な理解を得る。		○	○	○	●子どもの心身の健康を守るためには、ふだんから子どもをよく観察することが必要であることを理解する。 ●子どもの事故を予防するポイントにそって室内・室外ともに環境を見直すことができる。 ●予防接種や健康診査の情報を把握し、適切に受けさせることができる。 ●子どもの行動と子どもの事故について関係づけて理解し、対応することができる。	●子どもの健康・安全を守る方法について考え、まとめたり、発表したりしている。	●子どもの病気への対応、安全確保についての適切な援助方法について考えようとしている。
		8 親になるということ	1	1 子どもの人間形成のために必要な親の役割と責任を学ぶ。 2 子どもの成長・発達にとってふさわしい家庭や社会環境の整備の大切さに気づかせる。 3 子育て支援のニーズとその社会的な重要性を理解する。		○	○	○	●親の果たす責任と役割について理解している。 ●近年の子どもを取り巻く環境の変化や子育てをする保護者の課題について理解している。 ●事例研究やロールプレイングなどを通して、子どもに対する親の働きかけの方法や親としての態度などをまとめたり、発表したりすることができる。	●事例研究やロールプレイングなどを通して、子どもに対する親の働きかけの方法や親としての態度などをまとめたり、発表したりすることができる。	●子育てへの社会的支援のありかたや支援策は、どうあればよいかについて考えようとしている。
		9 社会で子育て	1	1 子どもの権利条約や児童福祉法の理念を知り、子どももおとなと同様、一人の人間として人権をもっていることを理解する。 2 世界や日本の子どもを取り巻く問題を知り、その解決方法を考える。 3 集団保育の施設とその役割について理解する。		○	○	○	●親の果たす責任と役割について理解している。 ●近年の子どもを取り巻く環境の変化や子育てをする保護者の課題について理解している。 ●事例研究やロールプレイングなどを通して、子どもに対する親の働きかけの方法や親としての態度などをまとめたり、発表したりすることができる。	●育児不安や児童虐待などの事例をふまえ、それらの原因および解決方法をまとめたり、発表したりしている。 ●地域の子育て支援や子育てを支援する制度について調べたり、発表したりしている。	●近年の子どもを取り巻く環境の変化と課題について考え、よりよい環境を保障するために親や家庭、社会が果たす役割は何かを考えようとしている。

学期	月	学習内容(章・節・項)	時間	学習のねらい	他教科との関連、 学習活動の特記事項				知識・技能	思考・判断・表現	c. (学びに向かう力・人間性等のうち) 主体的に学習に取り組む態度
						a	b	c			
<b>第4章 高齢期の生活のマネジメント</b>											
		<b>1 人生100年時代の高齢期</b>	1	1 人間の発達の完成期であり、同時に現代社会の課題でもある高齢期への関心を高める。 2 人生100年時代では、高齢者が意欲・能力に応じて生き生きと活躍し続けられる「エイジレス社会」の構築が必要であることを理解する。	* 高齢者と交流できる機会をもつことができるよ。 * 高齢者に関する情報を自分たちで調べさせてみるとよい。	○	○	○	●人は生涯発達し続けること、高齢期だからこそこいされる能力があることについて理解している。 ●高齢者に対する共感の大切さを理解している。	●身近な高齢者への聞き取り調査などを通して、高齢者の生活の現状についてまとめたり、発表したりすることができる。	●高齢者を肯定的にとらえ、適切にかかわろうとしている。
		<b>2 年をとると変わること</b>	1	1 高齢者の心身の特徴を知り、高齢期の生活を充実させるための個人的・社会的方策を考える。		○	○	○	●加齢にともなう心身の変化と特徴や高齢者の生活実態と課題を理解している。 ●加齢にともなう心身の変化と特徴を理解し、それを支える具体的な方法や留意すべきことなどについて理解している。	●高齢者の心身の特徴の一般的变化と個人差に気づき、高齢者の生活の現状と課題について具体的に考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●高齢者の加齢にともなう心身の変化と特徴に関心をもとうとしている。
		<b>3 高齢期の生活を支える</b>	1	1 高齢者の生活課題を把握する。 2 高齢者福祉の考えかたについて理解し、高齢者にとって豊かな生活とは何か、生活の質の向上と自己決定権の保障という視点から考える。 3 高齢者の自立を支援するための社会保障、社会福祉制度について知る。		○	○	○	●高齢社会の現状と課題、高齢者福祉の基本的な理念と近年の高齢者福祉サービスの概要について理解している。 ●生徒の居住地域の高齢化の状況や福祉サービスについて調べ、まとめたり、発表したりすることができる。	●高齢期の生活課題を自己の課題としてとらえ、解決策について考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●高齢社会の現状や課題、高齢者の自立生活支援はどうあればよいのかなどについて考えようとしている。
		<b>4 介護を支える 演習にTry! 高齢者の介助を体験してみよう</b>	1	1 介護保険制度の概要を理解する。 2 家族で介護について話し合うことの重要性を知る。 3 高齢者の介助を体験し、実践できるようにする。		○	○	○	●介護保険制度の目的と概要について理解している。 ●介護をめぐる状況について理解している。 ●介護保険制度の概要を調べ、地域ではどのような介護サービスが実施されているかを把握できる。 ●高齢者の介助を必要に応じて適切に実践できる。	●高齢者が介護を必要とするようになった理由、介護をする家族が直面する問題などを調べることによって、介護についての考えを深めたり、まとめたり、発表したりしている。	●高齢者介護の心構えについて考えようとしている。 ●高齢者の介助技術を積極的に習得しようとしている。
		<b>5 これからの高齢社会</b>	1	1 日本の高齢社会を人口の高齢化と少子化との関連で理解し、日本の特徴を外国と比較する。 2 高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるようにするために、家族や地域が果たす役割について考える。		○	○	○	●日本の高齢化の特徴と課題を理解している。 ●子どもから高齢者まで一人ひとりを地域で支え合う福祉社会の重要性を理解している。 ●高齢者の生活について、調査・観察・インタビューしたことをまとめたり、発表したりすることができる。	●わが国の高齢化の特徴や生徒の居住地域の高齢化の状況をふまえ、高齢者福祉サービスについて具体的に考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●高齢者とのコミュニケーションについて考えようとしている。 ●家族・地域における世代間交流の実践について考えようとしている。
<b>第6章 共生社会をつくる</b>											
		<b>1 生活課題の乗り越え方</b>	1	1 生活リスクについて理解し、人生におけるリスク管理の必要性を理解する。 2 どのような状況になっても、できるだけ安定して安心して暮らせるようにするために福祉があることを理解する。 3 セーフティネットワークについて理解する。 4 自分の生活に問題が生じたとき、どう解決するか具体的に考える。	*「公民」との関連。 *「第1～5章」との関連。 *スクールプロジェクトとの関連。	○	○	○	●生活のリスクとそれを支えるものとして福祉があることを理解している。 ●リスク回避方法の一つとしてセーフティネットワークがあることを理解している。 ●自助・互助・共助・公助について、具体例とともに理解している。 ●セーフティネットワークを活用すべき事例について理解している。	●自助・互助・共助・公助の具体的事例について調査・研究し、まとめたり発表したりすることができる。 ●セーフティネットワークについて、調査・研究し、まとめたり発表したりすることができる。	●現代社会における生活のリスクとその対応について考えようとしている。 ●日常生活にある自助・互助・共助・公助のあり方について考えようとしている。
		<b>2 みんなで支え合うしくみ</b>	1	1 社会保障制度の概要について理解する。 2 社会保障制度を支える、税金やマンパワーについて理解する。		○		○	●社会保障制度について理解している。 ●リスクに応じたセーフティネットワークを選択し、関係する施設を探して訪れ、相談したり利用の申請等が可能な窓口までたどりつくことができる。		●社会保障制度について、人の一生におこるできごとと関係づけて考えようとしている。
		<b>3 とともに生き、社会をつくる</b>	1	1 共生社会の理念について理解する。 2 バリアフリー、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインの視点とはどのようなものかを理解し、その視点で自分の生活や地域、社会を見て課題を発見し、当事者としてその課題解決に参加することができるようにする。		○	○	○	●共生社会の理念について理解している。 ●共生社会の実現には日ごろからのコミュニケーションが重要であることを理解している。 ●地域の人々、地域社会を支える人々と交流できる。 ●ボランティアや地域活動に参加することができる。	●共生社会の実現にむけて、自分の生活する地域ではどのようなことができるか、考えを深めたり、発表したりしている。 ●地域活動やボランティアの具体的事例について調査・研究し、まとめたり発表したりすることができる。	●自分の能力をいかした地域活動について考えようとしている。
<b>第7章 持続可能な社会をつくる</b>											
		<b>1 地球が危ない</b>	1	1 日々おこなっている生活の行為が環境へ負荷を及ぼしていることを理解する。 2 資源を循環させる必要性和その方法を知る。 3 SDGsについて理解し、一人ひとりの行動変容こそが大きな解決の力となることを理解する。	* エネルギー問題については「化学」「公民」「地理」と連携。 * 自然環境については「地理」「生物」との連携。 * 炭素社会(近代化の過程)については「歴史」との関連。 * 「エコライフ」「グリーンコンシューマー」など生活における環境保全活動については「第8章」および衣食住との関連。	○		○	●大量生産、大量消費、大量廃棄の生活が環境へ与える負荷を理解している。		●消費生活と資源や環境とのかわりについて考えようとしている。
		<b>2 ライフスタイル再考</b>	1	1 購入の意思決定が生産に影響を及ぼしうることを理解させ、市場で提供される商品が環境へ及ぼす影響を考えようとする力を養う。 2 持続可能な社会と個々人のライフスタイルの関連を理解させ、実践に結びつけられるようにする。		○	○		●持続可能な社会を実現するために必要な法律や制度について理解している。	●環境に調和したライフスタイルのありかたについて思考を深め、考えをまとめたり、発表したりしている。	
		<b>3 めざせ! 持続可能な社会</b>	1	1 持続可能な社会を実現するために必要な法律や制度について理解する。		○		○	●資源調達から廃棄までの各段階における環境負荷について検討し、環境に調和した生活を工夫することができる。		●環境負荷の少ない生活の実践について考えようとしている。
<b>第8章 経済生活のマネジメント</b>											

学期	月	学習内容(章・節・項)	時間	学習のねらい	他教科との関連、 学習活動の特記事項	a	b	c	知識・技能	思考・判断・表現	c. (学びに向かう力・人間性等のうち) 主体的に学習に取り組む態度
		<b>1 生活を営むためのお金</b>	1	1 経済的自立について理解する。 2 労働の基本は、時間の対価として報酬を得ることであるが、労働に期待することは人それぞれであり、将来就きたい仕事と結びつけながら、自分なりの労働観をまとめていく。 3 労働に関する契約や条件について知る。	* 実生活における家計の収支を認識させる。 * 契約の重要性を認識させ、トラブル防止・回避に必須の学習であることを理解させる。 * 生活情報や経済活動については「公民」との連携。 * 情報の扱いについては「中学技術」の振り返り、「情報」との連携。	○	○	○	●経済的自立について理解している。 ●労働や職業選択の際に、契約や条件を検討して、自分の労働観にあった選択ができるようになる。	●アルバイトや就職などを念頭にしながら、自分だったらどうするかについて考えを深め、まとめたり発表したりしている。	●自分の将来を見据えて、労働や職業について考えようとしている。
		<b>2 経済のしくみを知ろう</b>	1	1 毎日の生活を営むために必要な費用を知る。 2 家計を中心とした経済の循環を知る。 3 家計と社会の経済情勢は密接に関係していることを知る。		○	○	○	●収入と支出からなる家計について理解している。 ●家庭経済と国民経済とのかかわりについて理解している。 ●物価、税金や社会保険料、公共料金が家計に及ぼす影響について、他教科との関連や新聞記事等から確認することができる。	●自身の経済活動が企業や政府などの経済活動とつながっていることについて考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●家庭経済と国民経済とのかかわりについて関心を持ち、家庭の経済計画の重要性について考えようとしている。
		<b>3 お金と上手につきあう術 演習にTry! ライフプランを立てよう</b>		1 人生を見通した経済計画を立てる必要性と方法を知る。 2 リスク管理について知る。 3 家計管理と資金管理について知る。		○	○	○	●生涯を見通した経済計画の必要性について理解している。 ●経済計画で考慮しなくてはならない事項を理解している。 ●家計管理と資金管理の方法について、社会経済の動きと関連させて理解している。	●生涯に起こりそうなリスクを想定しながら、経済計画を立てて、経済計画の重要性について考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●生涯に起こりそうなリスクを想定しながら、経済計画について具体的に考えようとしている。
		<b>4 18歳で変わる消費生活</b>		1 消費にかかわる契約について理解する。 2 契約を交わす際の注意点、契約を交わしたときに発生する法的責任、契約に関するトラブルについて知る。		○	○	○	●契約について理解している。 ●多様化する消費者問題の特徴を理解している。	●多様化する消費者問題にどのように対処すべきか考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●消費者問題の課題に関心をもとうとしている。
		<b>5 進むキャッシュレス社会</b>		1 経済発展や技術の進歩により、消費生活は多様化・複雑化していることを理解する。 2 キャッシュレス化にともない、みえにくいお金の動きを的確にとらえられるような意識的な家計管理が必要であることを理解する。 3 商品の購入方法、支払い方法の種類と特徴を知る。		○	○		●近年の消費生活の特徴を理解している。	●多様化・複雑化する消費生活の課題について考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	
		<b>6 「お金を借りる」ということ</b>	1	1 消費者信用について理解する。 2 多重債務について知るとともに、「お金を借りる」機会を有意義に活用できるようにする方法を考える。		○		○	●契約、クレジット、ローンについて理解し、適切に自己管理することができる。		●自分や家族にとって有効なお金の使いかたについて考えようとしている。
		<b>7 消費者トラブルの今</b>	1	1 消費者問題が発生する原因を知る。 2 問題商法の現状を知り、なぜ、被害が起こるのかを考える。 3 情報化を背景とした消費者問題に注目し、問題商法の被害者あるいは加害者にならないようにする方法を考える。		○	○	○	●問題商法の種類と被害の内容、回避する方法について理解している。 ●特徴的な消費者トラブルの事例検討を通して、消費者心理について推察し、リスクを回避する能力を身につけている。	●問題商法にどのように対処すべきか考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●問題商法に関心をもとうとしている。
		<b>8 消費者の自立を支援する</b>	1	1 売買契約のトラブルや消費者問題から消費者を救済する法律や制度について理解する。 2 クーリング・オフ制度について理解する。		○		○	●契約上の問題から消費者を救済する制度や法律について理解している。 ●クーリング・オフの条件を理解し、必要な場合には通知できる。 ●消費者問題に遭遇したときに、相談窓口や手続きについて、正しい情報にたどりつける。		●消費者を救済する法律や制度に関心をもとうとしている。
		<b>9 情報社会を生きる</b>		1 消費に関するさまざまな生活情報の活用方法と情報社会における消費者の対応について考える。 2 消費行動が電子記録化される時代になり、消費意欲をあおられやすい環境にあることを知り、自分の行動をコントロールする力を身につける大切さを理解する。		○	○	○	●メディアリテラシーを働かせ、クリティカル・シンキングでものごとを評価することを日ごろから実践できるようにする。 ●消費者問題、生活情報の収集・選択と活用について具体的な事例を通して理解している。 ●消費者として主体的に判断し行動するために必要な生活情報を、適切に活用することができる。	●自分の生活に起こったことと関連づけながら、生活情報を活用することについて、考えを深めたり、まとめたり、発表したりしている。	●消費生活の現状と課題、生活情報の収集・選択と活用について関心を持ち、どのように行動したらよいか考えようとしている。
		<b>10 私たちが社会を動かす</b>	1	1 消費者の権利が確立された歴史的動向を知り、消費者の権利と責任のありかたについて考える。 2 意思決定の重要性と消費行動における意思決定のプロセスを理解する。 3 消費には企業や社会を動かす力があることを理解し、その力を有意義に使う思考と行動力を身につける。		○	○	○	●消費者の保護、消費者の権利と責任について具体的な事例を通して理解している。 ●消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解している。	●消費者としての責任ある行動とはどのような行動か、考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●消費者一人ひとりが権利の主体として、どのように行動したらよいか、考えようとしている。 ●消費行動における意思決定の過程について関心を持ち、資源の適切な活用と関連させて考えようとしている。
<b>第9章 食生活のマネジメント</b>											
		<b>1 体と心を満たす食事</b>	1	1 食事のもつ意味を知る。	* 小中学校での学習を振り返らせながら学習を展開すると効率よく進められる。 * 世界各国の料理と地域の特性については「地理」との関連。 * 生命活動の源となる栄養素や栄養素を利用する消化・吸収のしくみについては「化学」「生物」との関連。 * 食事と健康については「保健」との関連。 * 食品衛生については「保健」との関連。	○		○	●5大栄養素と代表的な食品について理解している。 ●食事の役割について理解している。		●現代の食生活や食事の意義について考えている。
		<b>2 イエローカードかも?</b>		1 現代の食生活の問題点について、生徒各自の現在の食生活を分析し、問題点を把握して、自らの食生活について多面的に考える力を養う。 2 現在の食生活の現状を理解し、どのようにすればより健康的な食生活が送れるのか考える。		○	○	○	●自分の食生活の問題点を理解している。 ●自分の食生活を点検し、見直すことができる。	●自分の食生活や家族の食生活を分析し、改善方法について考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●食生活を見直す必要性について考えようとしている。

学期	月	学習内容(章・節・項)	時間	学習のねらい	他教科との関連、 学習活動の特記事項	a	b	c	知識・技能	思考・判断・表現	c. (学びに向かう力・人間性等のうち) 主体的に学習に取り組む態度
		<b>3 日本の食文化“WASHOKU”</b>	1	1 食文化の成り立ちを知り、その変化の過程と現代の食生活との関係を知る。 2 世界のさまざまな食文化について理解し、自分の慣れ親しんだ食文化や日本の食文化を世界に発信していくことを通した国際理解について考える。	の関連。 * 食料自給率については「公民」との関連。	○	○	○	●日本や世界のさまざまな食文化の事例を通じて、食文化がその土地の風土の中で長年にわたって形成されたものであることを理解している。 ●日本や世界のさまざまな食文化や食卓作法などを理解して、国際交流をすることができる。	●異文化を認め合うことや慣れ親しんだ食文化について理解することについて思考を深め、考えをまとめたり、発表したりしている。	●食文化に関心を持ち、人間と食べ物とのかわりについて考えようとしている。
		<b>4 栄養バランスのよい食事</b>	1	1 食事と食品と栄養素の関係について理解する。 1 食事摂取基準、食品群の種類を理解し、その目的と生活のなかでの利用方法を理解する。		○	○	○	●食事摂取基準、四つの食品群別摂取量のめやす、栄養価計算について活用方法を理解している。 ●日本食品標準成分表を活用した食事の栄養価計算ができる。	●食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすについて、家族や自分の食生活と関連させて具体的に考え、まとめたり、発表したりしている。	●成長・発達の促進、健康の保持・増進、生活習慣病予防のためには、1日に必要なエネルギーや栄養素量を把握することが重要であることを認識している。
		<b>5 炭水化物を摂る</b>	1	1 炭水化物の働きとその重要性を理解する。 2 炭水化物の種類を知り、炭水化物の摂りかたについて考える。 3 炭水化物を多く含む食品とその利用方法を考える。		○	○	○	●炭水化物の種類と機能を理解している。 ●おもな食品の栄養的特質を食品群と関連させて理解している。 ●栄養素の種類と機能を理解したうえで、献立を立てることができる。	●栄養素の種類と機能をふまえ、食品を組み合わせる具体的な献立をまとめたり、発表したりしている。	●家族や自分の食生活について、栄養素(炭水化物)と健康とを関連させて考えようとしている。
		<b>6 脂質を摂る</b>	1	1 脂質のさまざまな働きについて理解する。 2 脂肪酸の種類を知り、脂質の摂りかたについて考える。 3 脂質を多く含む食品とその利用方法を考える。		○	○	○	●脂質の種類と機能を理解している。 ●おもな食品の栄養的特質を食品群と関連させて理解している。 ●栄養素の種類と機能を理解したうえで、献立を立てることができる。	●栄養素の種類と機能をふまえ、食品を組み合わせる具体的な献立をまとめたり、発表したりしている。	●家族や自分の食生活について、栄養素(脂質)と健康とを関連させて考えようとしている。
		<b>7 たんぱく質を摂る</b>	1	1 たんぱく質のさまざまな働きについて理解する。 2 不可欠アミノ酸について知り、たんぱく質の栄養価を食生活にいかす方法を理解する。 3 たんぱく質を多く含む食品とその利用方法を考える。		○	○	○	●たんぱく質の種類と機能を理解している。 ●おもな食品の栄養的特質を食品群と関連させて理解している。 ●栄養素の種類と機能を理解したうえで、献立を立てることができる。	●栄養素の種類と機能をふまえ、食品を組み合わせる具体的な献立をまとめたり、発表したりしている。	●家族や自分の食生活について、栄養素(たんぱく質)と健康とを関連させて考えようとしている。
		<b>8 無機質を摂る</b>	1	1 無機質・ビタミンのさまざまな働きについて理解する。 2 日本人に不足しがちな無機質、過剰になりがちな無機質を知り、摂りかたについて考える。 3 無機質・ビタミンを多く含む食品とその利用方法を考える。		○	○	○	●無機質・ビタミンの種類と機能を理解している。 ●おもな食品の栄養的特質を食品群と関連させて理解している。 ●栄養素の種類と機能を理解したうえで、献立を立てることができる。	●栄養素の種類と機能をふまえ、食品を組み合わせる具体的な献立をまとめたり、発表したりしている。	●家族や自分の食生活について、栄養素(無機質・ビタミン)と健康とを関連させて考えようとしている。
		<b>9 ビタミンを摂る</b>	1	1 無機質・ビタミンのさまざまな働きについて理解する。 2 日本人に不足しがちな無機質、過剰になりがちな無機質を知り、摂りかたについて考える。 3 無機質・ビタミンを多く含む食品とその利用方法を考える。		○	○	○	●無機質・ビタミンの種類と機能を理解している。 ●おもな食品の栄養的特質を食品群と関連させて理解している。 ●栄養素の種類と機能を理解したうえで、献立を立てることができる。	●栄養素の種類と機能をふまえ、食品を組み合わせる具体的な献立をまとめたり、発表したりしている。	●家族や自分の食生活について、栄養素(無機質・ビタミン)と健康とを関連させて考えようとしている。
		<b>10 豊かな食卓に</b>	1	1 調味料・香辛料の特徴と調理での活用のしかたを知る。 2 嗜好品の利用目的を知る。 3 加工食品を利用するときなど、食品を選択するときに判断すべき情報について、表示等と組み合わせて理解する。		○	○	○	●調味料・香辛料の調理における使用目的、調理性について理解している。 ●加工食品の種類と留意点を理解している。 ●保健機能食品について理解している。	●栄養素の種類と機能をふまえ、食品を組み合わせる具体的な献立をまとめたり、発表したりしている。	●家族や自分の食生活について、栄養や健康と関連させて考えようとしている。
		<b>11 食品のプロフィールを知る</b>	1	1 食品の流通経路を知り、食品の鑑別や購入できる能力を養う。 2 食品の適切な保存ができるようにする。 3 放射線照射食品やゲノム編集食品など、食品をについて正しく理解する。		○	○	○	●食品を選択するポイントを理解している。 ●食品の表示を読み取ることができる。 ●食品添加物の使用目的について理解している。 ●健康や安全に配慮した食生活の管理ができる。		●健康や安全に配慮した食生活について考えようとしている。
		<b>12 食品を安全に取り扱う</b>	1	1 近年多発する食品に関する事件を取り上げて、なぜそのような事態が生じたのかを知るとともに、消費者として身につけるべき知識と判断力について考える。 2 食中毒の発生原因を知り、防ぐ方法を理解し、実行できるようにする。		○	○	○	●食品の安全性にかかわる問題点などを通して、食生活と健康との関連を理解している。 ●食中毒の発生状況や原因を理解している。	●近年の食品の安全性について思考を深め、まとめたり、発表したりしている。	●食の安全を守るしくみについて関心をもとうとしている。
		<b>13 持続可能な食生活</b>	1	1 日本および近隣諸国や世界の食環境問題について広く問題提起し、話し合い、自分自身の問題としてとらえる姿勢を身につける。 2 食料問題や環境問題、災害時にも対応できるよう、ふだんの生活からできることを工夫する実践力を身につける。		○	○	○	●食料自給率を知り、輸入に依存したときに起こる問題について理解している。 ●環境に配慮した食行動ができる。 ●災害時のことを考慮した食生活の工夫ができる。	●食料自給率を上げていくためにできることを考え、まとめたり、発表したりしている。 ●環境への配慮、災害時への対応を具体的に考えて、その方法をまとめたり、発表したりしている。	●日本の食料事情について、世界との関係から考えようとしている。 ●環境への配慮や災害時の食生活について考えようとしている。
		<b>14 みんなでおいしい食事を演習にTry！ 献立づくりに挑戦</b>	1	1 これまでに習得した栄養・食品に関する知識をいかして、献立を作成できるようにする。 2 作成した献立にしたがって調理し、食卓に出しておいしく食べられるようにする。		○	○	○	●栄養素の種類と機能を理解したうえで、献立を立てることができる。 ●家族の栄養や嗜好、調理の能率、経済面などを考慮した適切な1日の献立作成ができる。	●自分や家族の献立を、栄養や嗜好、調理の能率、経済面などを考慮しながら立て、気づいたことをまとめたり、発表したりしている。	●食事内容や献立立案に関心をもとうとしている。
		<b>15 調理のワザを身につける 調理実習</b>	6	1 食品を調理する目的を理解し、調理により食品がどのように変化するか、また同じ食品でも調理操作により味やテクスチャーが異なるものになることを理解する。 2 調理を科学的に理解する態度を養う。 3 調理を能率的におこなうための調理器具の利用のしかた、安全への配慮に目をむける。		○	○	○	●食品の調理上の性質をいかした調理法について理解している。 ●配膳や食事のマナーについて理解している。 ●調理の基礎技術を身につけ、実生活で活用し、調理することができる。 ●配膳や食事のマナーをふまえ、楽しく食事をする工夫ができる。	●調理の技術を積極的に身につけようとしている。	●食生活の多様化や食環境の変化に興味を持ち、調理実習・実験に取り組んでいる。
<b>第10章 衣生活のマネジメント</b>											

学期	月	学習内容(章・節・項)	時間	学習のねらい	他教科との関連、 学習活動の特記事項				知識・技能	思考・判断・表現	c. (学びに向かう力・人間性等のうち) 主体的に学習に取り組む態度
						a	b	c			
		1 人と被服のかかわり	1	1 人間と被服の関係を、被服の歴史から確認する。 2 現代の衣生活が技術革新によってもたらされたものであることを知る。 3 わが国の被服材料の供給や被服産業の現状を理解する。	* 小中学校での学習を振り返らせながら学習を展開すると効率よく進められる。 * 世界各国の被服と地域の特性については「地理」との関連。 * ファッションや伝統的な被服については「歴史」「美術」との関連。 * ライフステージと衣生活の関係においては「第1章」「第3章」「第4章」との関連。 * 界面活性剤の働きについては「化学」との関連。	○	○	○	●人が被服を着る理由について知る。 ●現代の衣生活が技術革新によって実現されてきたことを知る。	●自分の衣生活について振り返り、課題をみつけようとしている。	●人間と被服とのかかわりについて考えようとしている。 ●自分の衣生活について振り返り、課題をみつけようとしている。
		2 和服を着たこと、ある？		1 衣文化の成り立ちを知り、その変化の過程と現代の衣生活との関係を知る。 2 世界のさまざまな衣文化について理解し、自分の慣れ親しんだ食文化や日本の衣文化を世界に発信していくことを通した国際理解について考える。	* 実験・実習や視聴覚教材、見本の提示を活用する。 * 実習にあたっては、計画性・安全性にじゅうぶん配慮する。	○	○	○	●日本や世界のさまざまな衣文化の事例を通じて、衣文化がその土地の風土の中で長年にわたって形成されたものであることを理解している。 ●日本や世界のさまざまな衣文化を理解して、国際交流をすることができる。	●異文化を認め合うことや慣れ親しんだ衣文化について理解することについて思考を深め、考えをまとめたり、発表したりしている。	●衣文化に関心を持ち、人間と被服とのかかわりについて考えようとしている。
		3 快適な衣生活の条件	1	1 被服の機能について知り、T.P.O.に応じて、ライフステージに応じて、自分も他人も快適になる被服の着用ができるようにする。 2 被服の形と構成の関係を理解する。 3 動作とゆるみの基本的な関係を理解する。	* 実験・実習や視聴覚教材、見本の提示を活用する。 * 実習にあたっては、計画性・安全性にじゅうぶん配慮する。	○	○	○	●被服には保健衛生的機能と社会的機能があることを理解している。 ●健康・安全などについて配慮した被服の選択が適切にできる。 ●被服が内面的個性を表現する手段であることを理解している。 ●着ごちのよい被服は着用目的や動作などに合った被服であることを理解している。 ●身体の凹凸やサイズに合わせる立体構成の被服について、特に密着型の被服では、ゆるみ分の設定が着ごちに関与することを知り、被服が選択できる。 ●自分なりのコーディネートで表現しようとする態度を身につけている。	●被服の機能について考えをまとめたり、発表したりしている。 ●健康と安全に配慮した被服の調達と活用などについて考えを深め、まとめたり、発表したりしている。 ●自分らしい着装について考え、まとめたり、発表したりしている。	●被服の快適さを保障する条件について、具体的に考えようとしている。
		4 夏は麻、冬は毛の理由	1	1 被服材料の種類、性能、性能向上のための各種加工法を知る。		○	○	○	●被服材料の種類と特徴および着ごちや手入れ・保管にかかわる性能を理解している。 ●繊維の性質、糸や布の構造が、布の性能とかわりがあることを理解している。 ●用途や着用目的に合った被服材料の選択ができる。	●用途や着用目的に合った被服材料の選択について具体的に考えている。	●被服材料の性能と特徴について、着ごちなどと関連させて具体的に考えようとしている。
		5 健康と安全を守る被服		1 被服着用による健康障害や事故について知識を深め、トラブルの処理のしかたを理解する。 2 被服を安全にするための技術について知る。 3 災害時に備えて被服を準備できるようにする。		○	○		●健康・安全などについて配慮した被服の選択が適切にできる。	●健康と安全に配慮した被服の調達と活用などについて考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	
		6 長持ちさせる手入れ	1	1 洗濯の目的と方法、洗剤の種類と働きを理解する。 2 被服の洗濯以外の手入れ方法を知る。 3 被服の収納の方法を工夫し、実践する態度を養う。		○	○	○	●洗剤の働きと汚れが落ちるしくみ、乾式洗濯と湿式洗濯の特徴や利用上の注意について理解している。 ●被服材料に応じた洗濯、仕上げ、保管等ができる。 ●繊維製品の取り扱い絵表示を読み解き、適切な洗濯方法を選ぶことができる。	●被服材料に応じた被服整理や適切な衣生活の管理について考えようとしている。 ●被服管理について具体的に考え、取り組もうとしている。	●洗濯の種類や汚れの種類、洗剤の成分について関心を持ち、合理的な洗濯の方法について考えようとしている。
		7 被服の3R, 実践してる？	1	1 衣生活における資源や環境問題を考え、配慮する姿勢をもつ。 2 購入の意思決定が生産に影響を及ぼしうることを理解させ、市場で提供される商品が環境へ及ぼす影響を考えようとする力を養う。 3 持続可能な社会と個々人のライフスタイルの関連を理解させ、実践に結びつけられるようにする。		○	○	○	●資源の有効利用の観点に立った被服計画の必要性を理解している。 ●被服を長く大切にいかすための方法として、玉止め、玉結び、並縫い、まつり縫いといった縫製の基本技術が正しくできる。 ●資源調達から廃棄までの各段階における環境負荷について検討し、環境に調和した生活を工夫することができる。	●資源・エネルギー問題や環境保全に配慮した再利用や適正な廃棄の方法などについて考えを深め、積極的に取り組もうとしている。 ●環境に調和したライフスタイルのありかたについて思考を深め、考えをまとめたり、発表したりしている。	●環境に配慮した衣生活の営みについて考えようとしている。
		8 オリジナルの被服をつくる被服実習		1 被服を手づくりすることの楽しさや意義を考える。 2 既製衣料品にこれまで学習した縫製技能を応用することによって、より体型に合わせたり、自分らしさを表現できることを知り、実践する態度を養う。 3 被服の名称、形態、ディテールのデザイン、色・模様・繊維の種類・組織などの特徴、素材と季節の関係・価格など基本的な情報を確認する。 4 型紙補正の知識の初歩を理解する。 5 被服製作の工程と留意点を理解し、日常生活に役立つ縫製に関する基本的な知識と手法を理解する。		○	○	○	●実習を通して、被服の製作ができる。 ●布の裁ちかた、まち針の打ちかた、玉止め、玉結び、基礎縫いなど、縫製の基本技術が正しくできる。 ●縫製の基本技術の正しい方法を理解している。	●今、おこなっている作業が、完成品のどの部分の工程なのかを縫製工程と照らし合わせて考えながら作業している。	●縫製の基本技術の正しい方法を理解している。
		9 衣生活のPDCA	1	1 被服の活用の計画には、一連の流れがあることを理解する。 2 既製衣料品には種々の表示があることを知り、表示の内容を理解する。 3 被服の流行の発生過程について知り、数々の情報に惑わされずに自分らしい着装と被服の管理ができるようにする。		○	○	○	●ライフステージごとの衣生活の課題を理解している。 ●衣生活の計画の流れについて理解している。 ●被服の表示に示されている情報を応用して、被服管理をすることができる。 ●被服の表示を読み取ることができる。 ●被服を購入するときのチェックポイントを活用して被服を選択・購入することができる。	●被服管理について具体的に考え、取り組もうとしている。	●ライフステージや自分のライフスタイルに応じた健康で合理的な衣生活を送ることに関心をもとうとしている。

学期	月	学習内容(章・節・項)	時間	学習のねらい	他教科との関連、 学習活動の特記事項				知識・技能	思考・判断・表現	c. (学びに向かう力・人間性等のうち) 主体的に学習に取り組む態度
						a	b	c			
		1 住まいを知ろう	1	1 住まいの役割や重要性を理解する。 2 住まいや住生活の変化とその要因を知ることを通して、現代の住まいや住生活について考える。	* 小中学校での学習を振り返らせながら学習を展開すると効率よく進められる。 * 世界各国の住まいと地域の特性については「地理」との関連。 * 住まいに対する生徒がもっているイメージを、アニメの主人公の住まいやリフォーム特集番組などの事例を活用して、広げる工夫をする。	○		○	●住まいの機能について理解している。 ●現代の住まいと住まい方について理解している。 ●住まいは人の暮らしの変化に応じて変化していくものであることを理解する。		●住まいの機能、人間と住まいとのかかわりについて考えようとしている。
		2 日本の住文化を知ろう		1 住文化の成り立ちを知り、その変化の過程と現代の住生活との関係を知る。 2 気候風土により、住まいが地域によって異なる特徴をもって発展してきたことを理解する。 3 世界のさまざまな住文化について理解し、自分の慣れ親しんだ住文化や日本の住文化を世界に発信していくことを通した国際理解について考える。	●イメージを、アニメの主人公の住まいやリフォーム特集番組などの事例を活用して、広げる工夫をする。 * ライフステージと住生活の関係においては「第1章」「第3章」「第4章」との関連。 * 住宅広告や住宅情報誌、インターネットなどを活用するとよい。 * 火山や地震など自然災害について「地学」との関連。	○	○	○	●住まいは気候風土に合わせ、材質や構造の工夫をすることで快適な空間を創造できることを理解している。 ●現代日本社会の気候風土に合わせた住まいの工夫について調べたことを、まとめたり、発表したりしている。 ●日本や世界の住まいについて、調査したり、まとめたり、発表することができる。		●住生活の文化に関心をもち、住まいの機能、人間と住まいとのかかわりについて考えようとしている。
		3 住む人の生活と住まい	1	1 住まいや住生活の現状を知り、改善のための課題について考える。 2 ライフスタイルやライフステージによって住空間に対する家族の要求が異なることを理解し、住まいへの要求に合った住まいのありかたを考える。 3 生活行為と住空間とのかかわりや、住空間の違いによって住まいの居住性が異なることを理解する。 4 住まいの平面図の基礎的知識を学び、要求に合った住まいであるかを平面図から読み取れるようになる。		○	○	○	●生活行為と住空間とのかかわり、動作に必要な広さ、家具の配置や動線などについて理解している。 ●平面図が読み取れ、住空間の計画について検討できる。 ●想定した家族や住まいのもと、住まいの機能や住空間と家族の暮らしかたなどについて、考えをまとめたり、発表したりしている。		●家族構成、ライフステージ、生活にかかわる価値観などに応じた住空間の計画について検討しようとしている。
		4 心地よく暮らすために	1	1 快適な室内環境確保のための知識を身につけ、健康な住まいや住生活のありかたを考える。		○	○	○	●健康に配慮した室内環境の整備について理解している。 ●健康に配慮した衛生的な住まいや室内環境の整備に必要な基礎的な技術を身につけている。	●健康に配慮した室内環境の整備、住まいの計画的な維持管理などについて考えを深め、まとめたり、発表したりしている。	●健康で快適に生活するための住まいについて考えようとしている。 ●健康に影響を及ぼす室内環境要素について知ろうとしている。
		5 安全に安心して暮らす	1	1 すべての人にとって安全な住まいの必要性を理解し、安全に配慮した住まいのありかたを理解する。 2 自然災害や人災などさまざまなケースに応じた防災対策について知り、自分の生活にいかせるようにする。		○	○	○	●安全に配慮した室内環境の整備について理解している。 ●安全に配慮した室内環境の整備や住環境の整備について基礎的な技術を身につけている。 ●防災・減災に対する備えができています。	●安全に配慮した住まいや室内環境の整備などについて、地域の状況と結びつけて考えをまとめたり、発表したりしている。	●安全に、安心して住める住環境について考えようとしている。 ●防災・減災について理解し、自分の住まいや地域の住環境を見直そうとしている。
		6 住まいを長く使う	1	1 住宅政策について理解する。 2 住生活を取り巻く状況について知る。 3 住まいを長持ちさせることの重要さと、住まいの寿命を延ばすにはどうしたらよいかを考える。		○	○	○	●住宅政策について、時代の変化と合わせて理解している。 ●住まいの寿命を延ばす意味と、それを実現する方法について理解している。 ●住宅の品質確保、メンテナンスといった住まいを管理する視点をもって、自分の住まいを見直すことができる。	●住まいの寿命について、諸外国の事例を調べたりして、日本の現状と比較しながら、メンテナンスの重要性について考えを深めたり、発表したりしている。	●住宅政策と課題について理解しようとしている。 ●住まいを長持ちさせる管理について関心をもちようとしている。
		7 住環境を見つめてみよう	1	1 地域環境問題の解決には、一人ひとりの理解と行動が不可欠であることを自覚し、環境に配慮した住まいの設備について知り、自分の生活を見直す。 2 住生活と地域社会とのかかわりについて理解し、地域の一住民として、果たす役割について考える。 3 住みよいまちづくりのためには、住民一人ひとりの意識や行動が大切であることを知り、豊かな住環境づくりに積極的にかかわる態度を養う。		○	○	○	●居住環境の改善には一住民として地域社会に参加する必要があることについて理解している。	●自然環境や社会環境と住生活の関連などについて調べたり、考えを深めたりしている。	●地球に暮らす一員として、また地域に暮らす一員として自分の生活を具体的に見直して考えようとしている。
最終章 生活をデザインする											
		生活の、主人公になろう…など(ワーク)演習にTry! なりたい私になろう	1	1 自分らしいライフスタイルや価値観(家族観・生活観・職業観など)の形成に関心をもち。 2 自分の夢や希望を実現するための職業生活・家庭生活・地域社会生活・経済生活について、多角的に考える力を養う。 3 これまでの学習をふまえ、長期的な生活設計を立案する際の課題を知り、実際に立案することができるようになる。	* 高校卒業後の進路について考えさせる。 * キャリア教育については「公民」との連携。 * これまでの学習を振り返らせ、関連を図る。 * 家庭科の全学習のまとめとして「ライフ・キャリアの虹」を参照しながら、ライフプランを描かせる。学習の最初に描いたライフプランと比較させて、学習の成果として人生や生活への関心が高まっていることを確認させるとよい。	○	○	○	●長期的な生活計画を立案する際の課題を理解している。 ●青年期の課題をふまえて、充実した人生を送るための生活設計を立案することができる。	●自分の夢や希望を実現するためには職業生活・家庭生活・地域社会生活・経済生活など、さまざまな視点で人生をとらえる必要があることについて考えを深め、意見交換したり、考えたことを発表したりしている。	●自分らしいライフスタイルや生活にかかわる価値観、生活時間のありかたなどをふまえ、将来の生活設計の立案に取り組んでいる。
		ホームプロジェクトとスクールプロジェクト	1	1 ホームプロジェクトおよび学校家庭クラブ活動の意義や方法について知る。 2 これまでの学習をいかし、問題意識をもって生活の中から課題を発見し、その解決方法を知る。 3 具体的な活動計画を立てて実践し、その成果をわかりやすく報告する。 4 実践後、自己の反省および他者からの評価を受けて次の活動へ発展させる。	* 学校全体の教育活動との関連。 * 地域の社会福祉協議会、地域で活動するNPO法人等との連携。 * 活動にあたっては、家族や地域等の協力が得られるかどうか確認して進める。 * ホームプロジェクトもスクールプロジェクトも、日常の学習活動に並行して取り組んでもよいし、夏期休暇・冬期休暇の期間中に取り組ませてもよい。	○	○	○	●「ホームプロジェクト」と「スクールプロジェクト」の意義と実施方法について理解している。 ●目標を明確にし、計画を立てて実践できる。	●生活のなかから課題を見出し、課題解決にむけて思考を深め、適切に判断している。	●家庭科の学習の発展として「ホームプロジェクト」と「スクールプロジェクト」について関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。